

わたしと強度行動障がい



合同会社ABC研究所

代表 今本 繁

www.abclab15.com



自己紹介 今本繁(いまもと しげる)

- 東京工科大学工学部機械制御工学科卒業
- 筑波大学大学院博士課程心身障害学研究課(小林重雄研究室)
- 知的障害者通所施設(社)大野城すばる園(野口幸弘園長、現福岡障害者支援センター理事長)非常勤指導員
- 国立肥前療養所(現、肥前精神医療センター)心理療法士
- ウェスタンミシガン大学行動分析学夏期研修
- ノースカロライナ大学TEACCH部インターン研修
- 西南女学院大学保健福祉学部福祉学科専任講師
- PECS(絵カード交換式コミュニケーションシステム)の会社ピラミッド教育コンサルタントオブジャパン設立社長
- 合同会社ABC研究所代表
- 九州歯科大学非常勤講師
- 臨床心理士、自閉症スペクトラム支援士EXPERT、教育学博士

ポジティブな 行動支援

書籍・福祉・教育職をめざす人のABA入門

今本 繁



ABC研究所

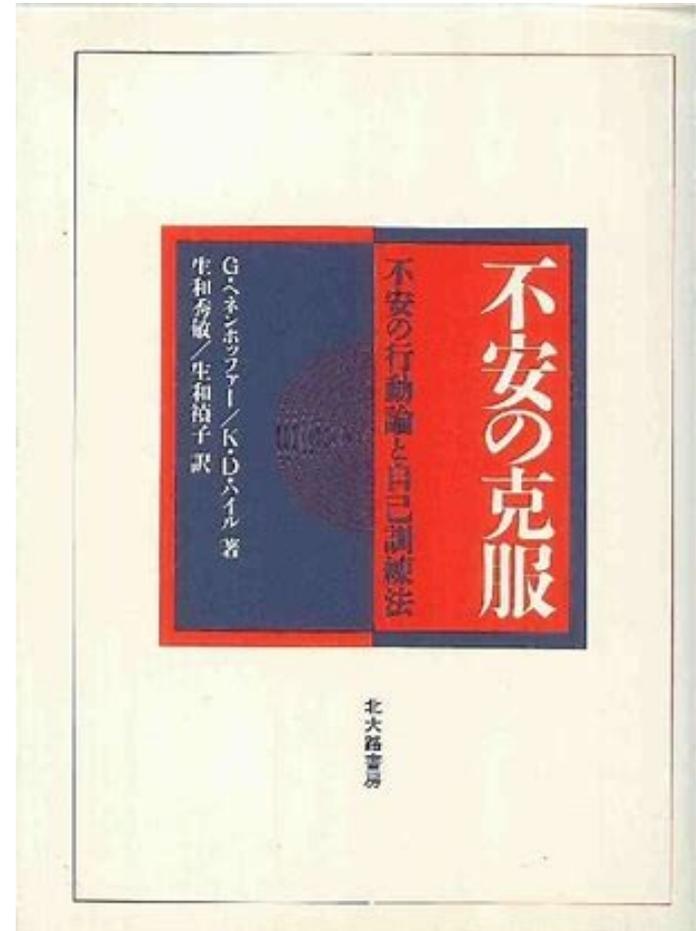
今日のトピックス

- なぜ工業大学からこの道に進むことになったのか？
- なぜ筑波大学？
- そこからすばる園の野口先生とどのように繋がったのか？
- さらに肥前ではどのような経験をし、何をしていたのか？
- そしてTEACCHへの留学では何を学んだのか？
- またなぜ大学を辞めてPECSの会社を設立したのか？
- 今のABC研究所でまさに取り組もうとしていること

なぜ工業大学からこの道に進むことになったのか？



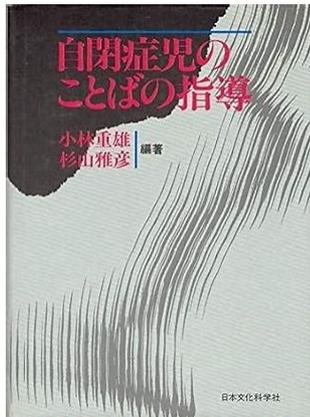
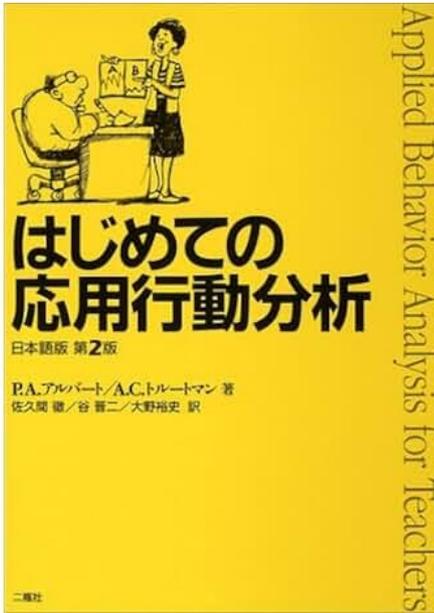
精神分析から行動療法へ



行動療法家を訪ねて



小林重雄教授の研究室



なぜ筑波大学から野口先生とどのように繋がったのか？



最初の出会い IHさん

- <https://www.youtube.com/watch?v=0Wkfgbqaquo>
- <https://www.youtube.com/watch?v=VpyUhgwX3z0>
- <https://www.youtube.com/watch?v=BaERJYLrbII>
- <https://www.youtube.com/watch?v=1b8k7tqFQrE>

IHさん

- B市養護学校高等部3年17歳5カ月
- WISC-Rの動作性IQ72、言語性IQ42、全検査IQ48
- S-M社会生活能力検査SQ35
- 幼児期にB市心身障害者センターで自閉症の診断、幼児期から学童期にかけて多動
- 中学、高校と身体が大きくなるにつれて行動の統制が効かなくなり、学校と家庭で行動障害が頻発
- C園における週1,2回の療育を開始

特殊教育学研究にて掲載された内容について (服巻・野口・小林, 2000), 一部加筆, 修正を加えた

簡易版 ABC 分析記録シート

行動問題: 腿叩き、腕噛みなどの自傷行動

A: 先行事象 行動が起こる前の状況、時間、 場所や活動、きっかけ、人	B: 行動問題に至るま での対象者の一連の 行動(起こった順に1つ 1つ順番に記述する)	C: 結果事象 行動が起こった後の状況、周 囲の人や支援者の反応	機能仮説 記入しないで ください
7/15 先週の支援者 B から今 週は支援者 C になる	「B は？」と聞く	C が「B から代わりまし た」と言う。すぐに B が来る。	人の要求
C が「B から代わりまし た」と言い、B も「A の担当は C です」 と言って去る	繰り返す「B にする」 と大声で叫び、腕噛み の自傷行動	そのまま落ち着くまで待っ て、C が担当を続ける。その 後、軽い自傷行動はある。	消去誘導性 行動
支援者 C が木工作業の内容を 変え、作り方の違いを説明	「前と同じにする」と 言う	C は「前の材料がなくなっ たので今日はこれです」と言う	変更要求
C は「前の材料がなくなっ たので今日はこれです」と言う	繰り返す「前のにす る」と大叫び腕を噛み 腿を叩く自傷行動	そのまま落ち着くまで待つど 作業を行うが、時々軽い自傷 行動はある。	消去誘導性 行動
.....	
8/11 来所時に部屋の設定が 変わっており、興味の強い物は 台所から隠してある	台所に行き物色し「〇 〇の瓶は？」となくな っているものを聞く	支援者が、「ありません」と言 う	物の要求
支援者が、「ありません」と言 う	繰り返す「〇〇の瓶 は」と叫び、腕を噛む 自傷行動	少し経って落ち着いたら支援 者が活動スケジュールを提示 し次の活動へ誘導	消去誘導性 行動
.....	
9/9 午前の仕事に支援者 B が通りかかる	B に「家の洗剤は？車 は何？」と聞く	B が「今は仕事です」と言う	応答要求
B が「今は仕事です」と言う	#	B が答える	#
B が答える	同じ質問を繰り返す	B が「もう終わり」と言う	消去
B が「もう終わり」と言う	質問を叫びながら、腕 を噛む自傷行動	B は「お終いい」と言いなが ら去る。その後、落ち着く。	消去誘導性 行動
この日は雨だったのでお昼に 活動スケジュールで午後の山 登りの中止を伝える	「山登り行く」と言う	支援者が口頭で「雨なので中 止です」と言う	活動要求
支援者が口頭で「雨なので中止 です」と言う	繰り返す「中止しな い」と叫び、腿を叩き、 腕を噛む自傷行動	落ち着くのを待って、午後の 活動に移行。山登りは行かな いで通す。時々自傷。	消去誘導性 行動

Fig. 5-2-2 7月15日と8月11日のA
の
記述的ABC分析記録シートの例

<本支援>

第5期: チャレンジング行動のアセスメントと先行
操作

- 記述的ABC分析: 記録はX+1年7月中旬から
11月上旬にかけて行われた。C園の支援者が
記録した内容をFig. 5-2-2に示した。以下の
ような先行事象により自傷行動が誘発されてい
た。①人・活動・物の配置の変化、急な予定変化、
②持ち物が見つからない、③やりたい活動を止
められる、④掃除中の汚れがなかなか落ちない。
- 記録から、筆者がチャレンジング行動全体を
ABC分析してまとめた。①について分析した例
をFig. 5-2-2に示した。Aにとって物事の変化
は、嫌悪的なので元に戻すように要求するが、受
け入れてもらえないので消去に移行し、訴えを何
度の繰り返す消去バーストと、それとは別に消去
誘導性の腕噛みの自傷が誘発された。

Table 2 MASに誘発を加えたものの評価結果

	感覚強化	逃避	注意獲得	要求	誘発
ひどい自傷	2.3	2.8	0.3	<u>4.3</u>	<u>3.3</u>
他傷・粗暴	1.5	<u>3.8</u>	1.0	<u>4.0</u>	<u>3.8</u>
騒がしさ	0.5	<u>3.3</u>	0.3	<u>4.5</u>	<u>3.8</u>
著しい多動	<u>5.3</u>	1.5	0.8	0.5	1.5
著しいこだわり	<u>3.0</u>	0	0	0	0

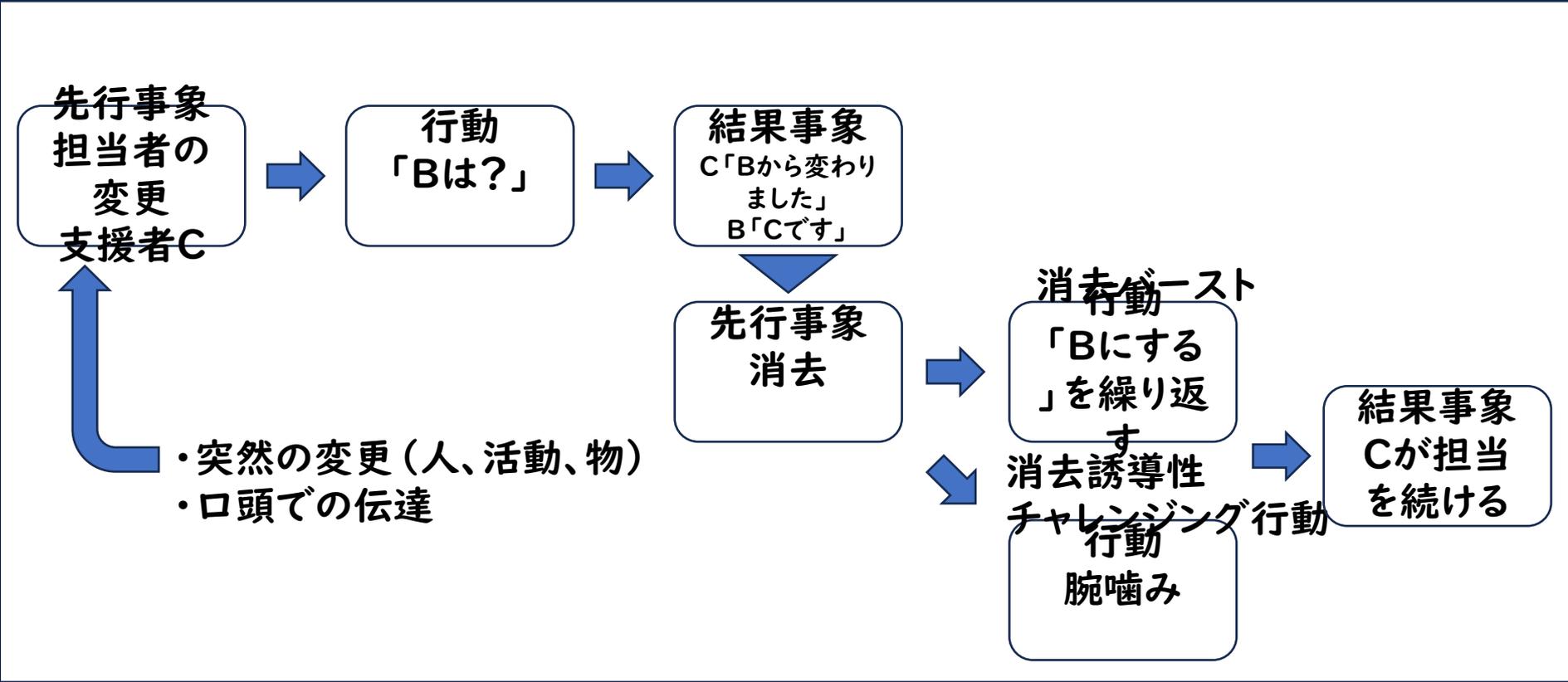


Fig. 5-2-2 ①についてのチャレンジング行動の全体像についての記述的ABC分析

Table 3 各指導期と先行子操作による支援内容

指導期	支援内容
第1期：9月から10月上旬	行動観察、活動で作業と余暇の提供
第2期：10月	作業と余暇のエリア分けと視覚的スケジュールの提示
第3期：11月から12月中旬	おやつコーナーの設定、逸脱の禁止カードと活動の選択肢の提示
第4期：12月下旬から翌2月	余暇と作業の選択肢の提示
第5期：2月から6月	第4期と同様
第6期：7月から8月	機能アセスメントに基づき対応を整理 余暇に「広告を見る」を追加、作業に洗剤の作業を入れる
第7期：8月から10月	第6期と同様

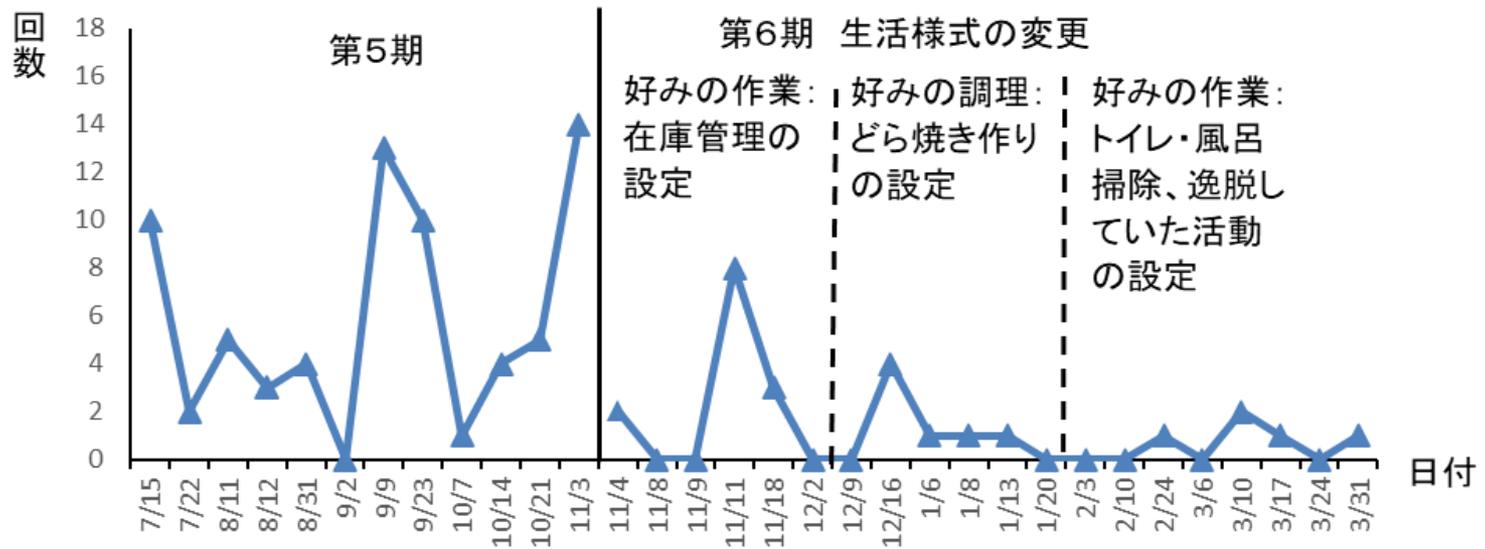


Fig. 5-2-3 本支援の第5期から6期までのひどい自傷行動の生起頻度の推移

Table 5-2-4 X + 1 年 4 月 と X + 2 年 1 月 の A の 生活 の 流 れ

X + 1 年 4 月 (第 4 期)

時間	平日の日課	時間	休日の日課
7:30	起床	8:00	起床
8:00	家を出発	9:00	朝食
8:40	登校		家族で外出
	学校での活動		温泉に行く
	下校		ドライブに出かける
15:30	帰宅		など
	台所の洗剤を見る	19:00	夕食
19:00	夕食		入浴
	テレビを見る、CD を聴く		自由時間
21:00	入浴		テレビを観る、CD を聴く
	飲み物を作って飲む	23:00	就寝
23:00	就寝		

X + 2 年 1 月 (第 6 期)

時間	平日の日課	時間	休日の日課
7:30	起床	9:00	起床
8:00	家を出発	10:00	洗剤の並べ替え
8:40	登校	12:30	昼食
	学校での活動	13:30	買い物とドライブ
15:30	下校		家の手伝いのバイト
16:00	帰宅	16:00	買ってきた物を並べる
	洗剤の並べ替え	18:00	夕食
	家の手伝いのバイト		自分でおやつを作って食べる
	ジュースを買う		テレビ・ビデオを観る
19:00	夕食	23:00	入浴
	洗剤の並べ替え	0:00	就寝
	テレビ・ビデオを観る		
23:00	入浴		
	飲み物を作って飲む		
1:00	就寝		

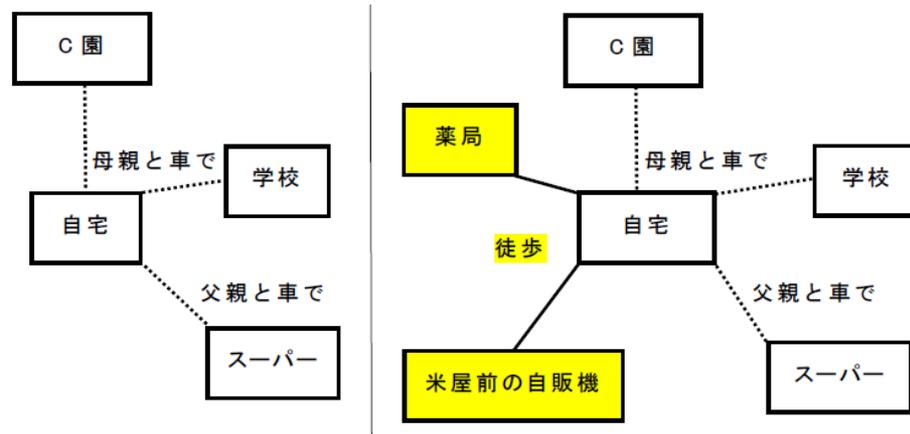
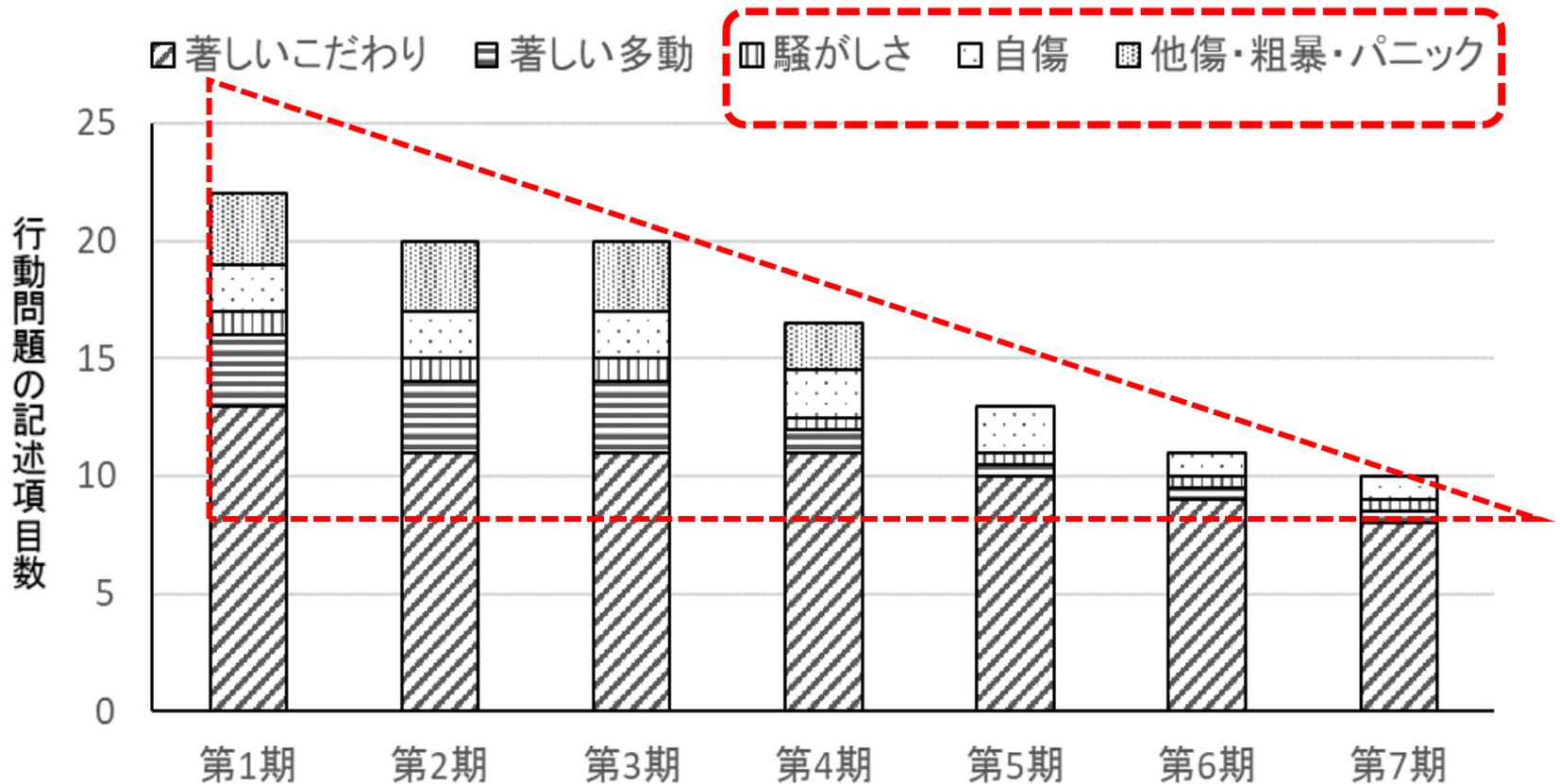


Fig. 5-2-4 X + 1 年 4 月 (第 4 期左) と X + 2 年 1 月 (第 6 期右) の A の 生活 地 図

(誰かと一緒に移動する時は点線、一人で移動する時は実線で表す)



各指導期における行動問題の変遷

続き

- 養護学校高等部3年。活動や仕事の手順書を読んで実行する能力を持っており、ワープロで簡単な文章を入力することもできた。2年時は職員に向かう攻撃行動や自傷行動があったが、1年間の支援により減少した。
- 洗剤や薬品を見るというこだわり行動により生活上の問題が継続していた。施設でのデイプログラム中、休憩時間まで待たなくて作業時間中に園内の倉庫にある洗剤を見に行ったり、職員の制止を振り切り洗剤を見るために隣家に無断で入ろうとして注意され暴れたこともあったりした。

簡易版 ABC 分析記録シート

行動問題: 作業中に持ち場を離れる、洗剤・事務用品のある所に行く、眺める・触る

A: 先行事象 行動が起こる前の状況、時間、 場所や活動、きっかけ、人	B: 行動問題に至るま での対象者の一連の 行動(起こった順に1つ 1つ順番に記述する)	C: 結果事象 行動が起こった後の状況、 周囲の人や支援者の反応	機能仮説 記入しないで ください
2/24 D舎の仕事が始める前 に活動スケジュールの約束を 確認する	D舎の商品を数えて 在庫チェック表に記 入する	支援員が離れしばらく続く	
支援員が離れて数分経過して	途中で台所に行って 洗剤を触ろうとする	支援員が活動スケジュール を見せて「休憩で見ます」 と言って注意	強化遅延誘導 性行動
支援員が活動スケジュールを 見せて口頭で注意	「いやいや」と言って 持ち場に戻る	支援員が離れる	消去誘導性行 動
数分して	職員室に入る	事務員が何ですか?と聞く	強化遅延誘導 性行動
事務員が何ですか?と聞く	「チラシ」と言う	事務員がありませんと言 うが、物色を続ける	要求
支援員が来て「戻ります」とい う文字カードを提示	「いやいや」と言って 持ち場に戻る	支援員が離れて仕事を続け る	消去誘導性行 動
数分して	備品倉庫に行く	支援員が口頭で注意	強化遅延誘導 性行動
支援員が口頭で注意	倉庫で洗剤を眺め る・触る	支援員が活動スケジュール を見せて「ドライブは中止 です」と言って注意	感覚強化
支援員が活動スケジュールを 見せて「ドライブは中止です」 と言って注意	「ドライブする」と大 声を上げる	支援員が活動スケジュール のドライブに線を引き中止 を伝える	消去誘導性行 動
支援員が活動スケジュールの ドライブに線を引き中止を伝 える	しばらく声をあげて いる	そのうち落ち着き、次のト イレ掃除に移る	〃

Fig. 6-4-1 2月24日のAの記述的ABC分析
記録シートの例

2. チャレンジング行動のアセスメント

- **MAS評価:** 2月24日に筆者が支援者の聞き取りにより評価した。洗剤を見に行く衝動的な逸脱行動の優先機能は感覚強化(3.0)であった。
- **記述的ABC分析:** 2月24日から3月31日の間にFig. 6-4-1のような記録用紙でC園の支援者に支援の合間に記録してもらい、筆者がFig. 6-4-2のようにまとめた。
- **MASの評価から洗剤を見に行く行動は、容器を触る、ラベルを眺める、匂いを嗅ぐなど感覚的強化によるものとされたが、洗剤を見に行く行動は活動スケジュールの中に作業と作業の合間の時間に出現することから洗剤を見に行く衝動的な逸脱行動は、強化の間隔が空くことによる強化遅延誘導性行動と考えられた。**

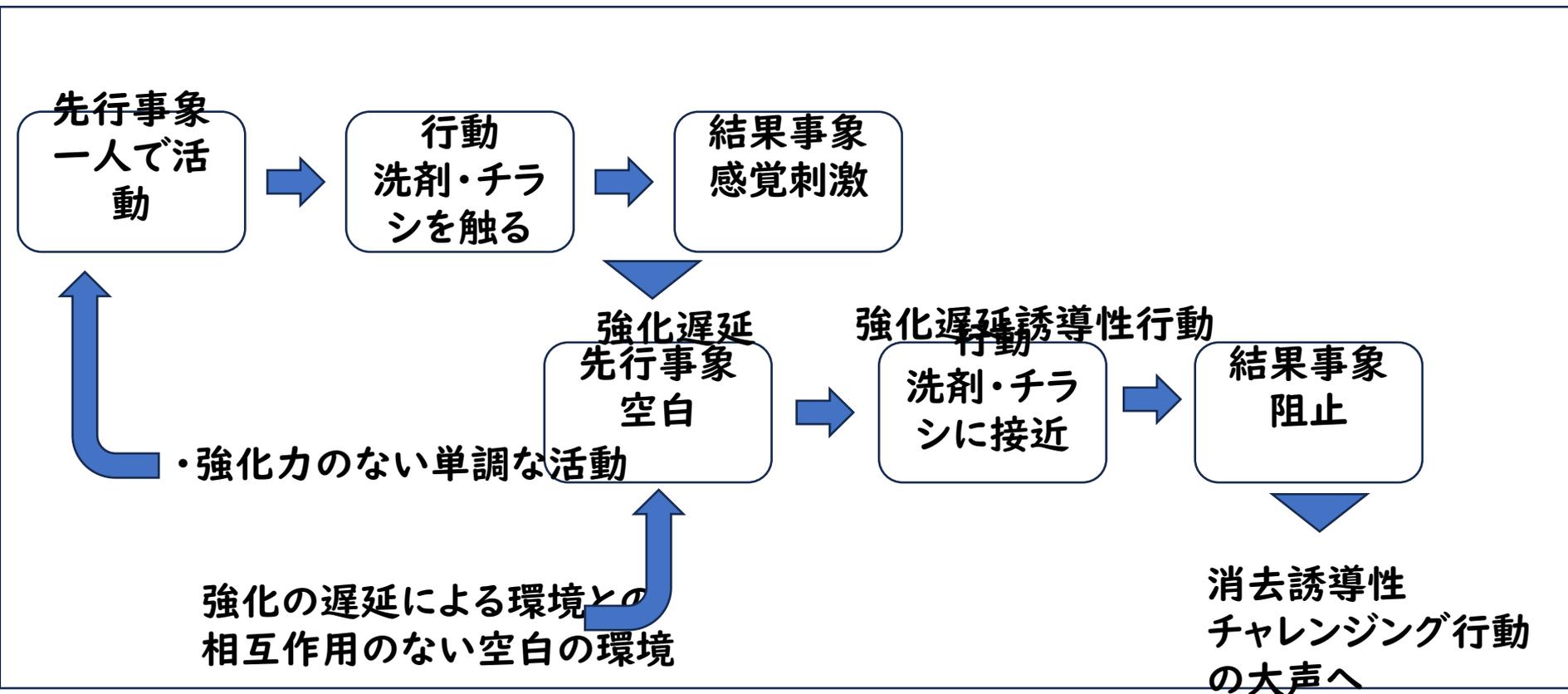


Fig. 6-4-2 チャレンジング行動の全体像についての記述的ABC分析

チェック		本日のスケジュール			
		1. スケジュールを決める、洗剤を見る			
	①	洗剤を見る			
	②	薬品を見る			
	③	台所洗剤の補充			
		2. 仕事(開始時間 11時05分)			
	①	洗剤を見て管理表の記入			
	②	広告を見て購入品の決定			
	③	事務のK先生に報告する			
	④	D舎の棚の整理&商品の在庫チェック管理の仕事			
		※約束		チェック	
		仕事の中にC園の事務用品	見に行かなかった		終了後、「3.」をする
			見に行った		終了後、「4.」をする
		仕事の中に、C園の台所に	見に行かなかった		終了後、「3.」をする
			見に行った		終了後、「4.」をする
		仕事の中に、C園の洗剤を	見に行かなかった		終了後、「3.」をする
			見に行った		終了後、「4.」をする
		3. ドライブ			
	車名	スターレット	コース名	H区	
		4. 仕事(掃除)			
		2階トイレ掃除→I先生に「終わりました」の報告→給料(100円)→給料を貼る			
		5. 広告を見る			
		6. 昼食			
	メニュー	皿うどん、野菜玉子スープ、鮭にぎり			
		7. 本を見る			
		8. 山登り&ドライブ			
	車名	スターレット	コース名	J方面	
		9. K清涼飲料、Lスナック(Mコンビニ店)			
		10. 終了			
		おみやげの広告を渡します。			
		欲しいものがあったら、D舎の買い物をしてもいいです。			

< 仕事チェック表 >

7 月 22 日 水曜日

開始時間	午前 <input checked="" type="checkbox"/> 午後 1 時 35 分
------	--

仕事の名前: 日用品(洗剤など)の在庫管理と D 舎商品陳列の管理	チェック	チェック者
① 仕事の開始時間になったら 3F ろうかの机のところへ来る		G
② 1F 倉庫の洗剤を見て、日用品在庫管理表に記入する		G
③ 広告を見て、不足分の安い購入品をさがす		G
④ 事務の I さんに報告及び確認してもらう		G
⑤ D 舎商品陳列棚の整理と在庫のチェック		G
⑥ D 舎にいる人に報告する		G

○: できました or 仕事の開始時間に来ました

△: 作事中に仕事以外のことをしました or 仕事の開始時間に遅刻しました

終了時間	午前 <input checked="" type="checkbox"/> 午後 2 時 19 分
------	--

チェックの欄が全部○だったら → 給料は ¥100 円 です

チェックの欄に△が 1 つでもあったら → 給料は ¥ 50 円 です

給料 : ¥ 100 円

貯金ボード（トークン）

トイレクリーン

(トイレ洗剤)詰替用 × 1

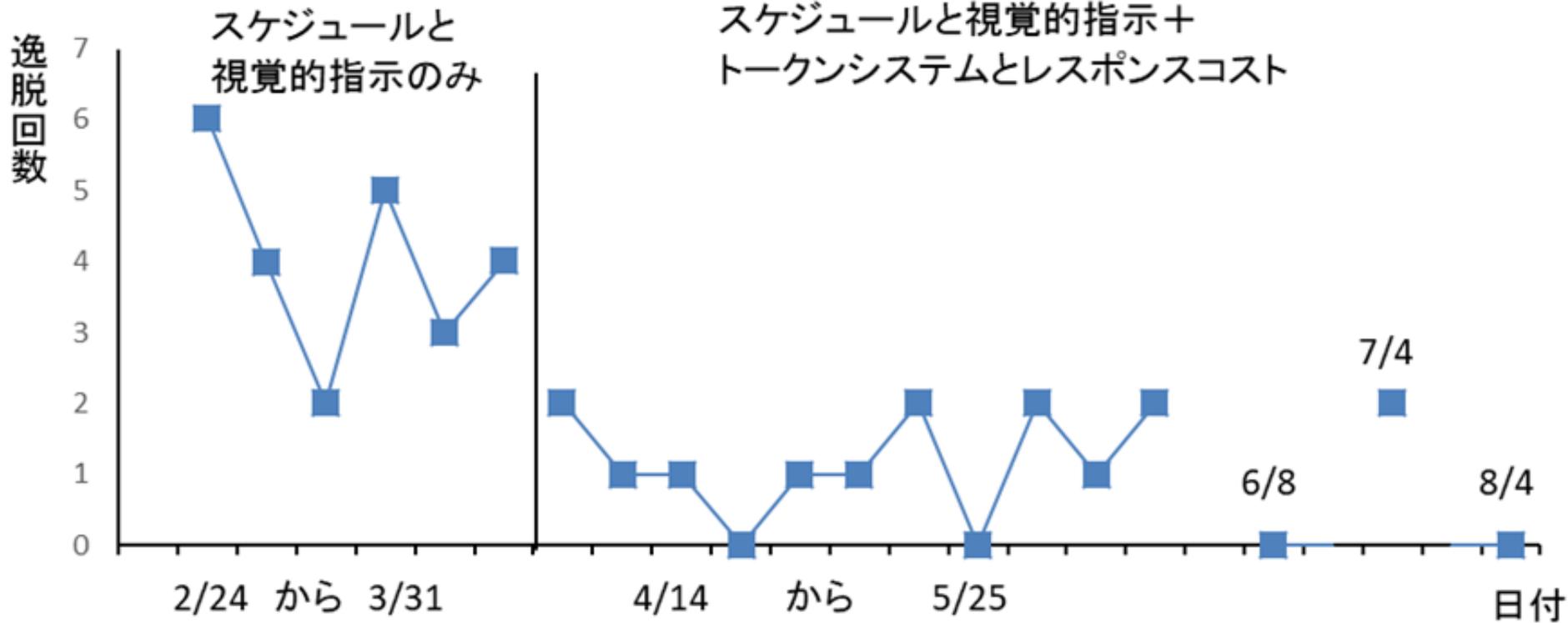
(ビックウチダ)

100

100

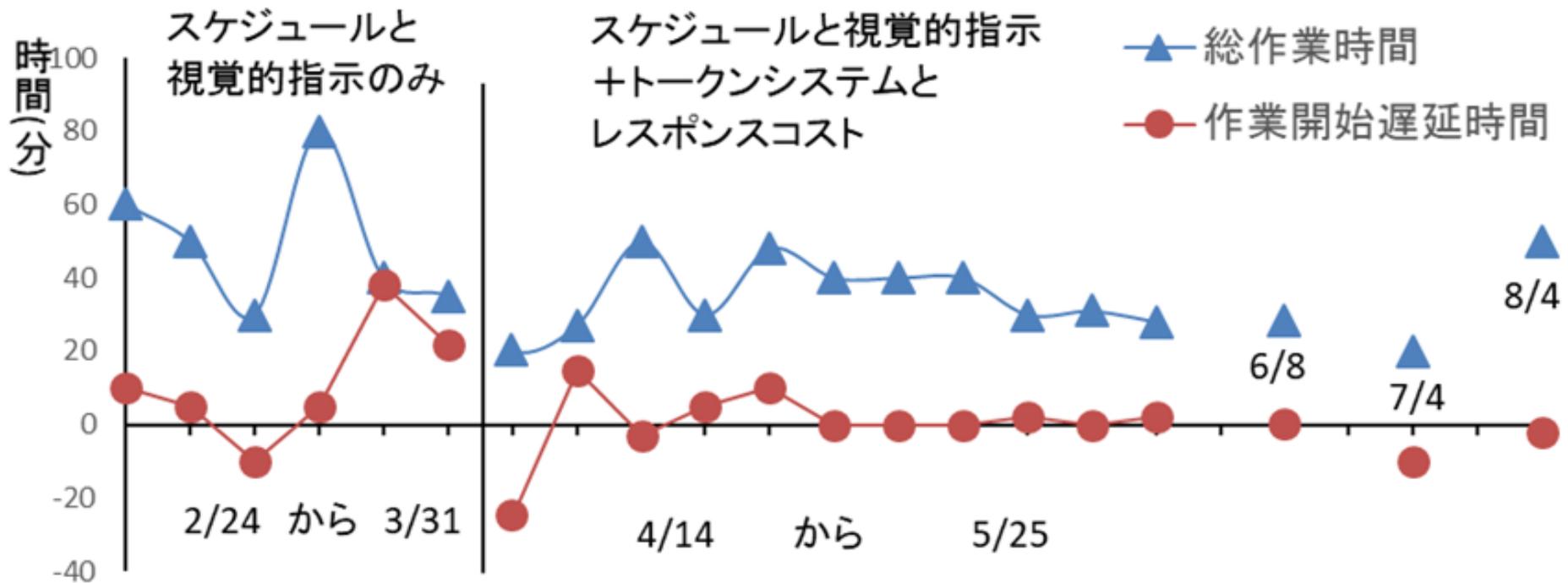
100

日用品管理とD舎商品管理作業中の逸脱行動の回数



日用品管理・D舎商品管理作業の 遅刻時間と総作業時間

時間軸の+は遅刻時間、-は予定よりも早く来たことを示す



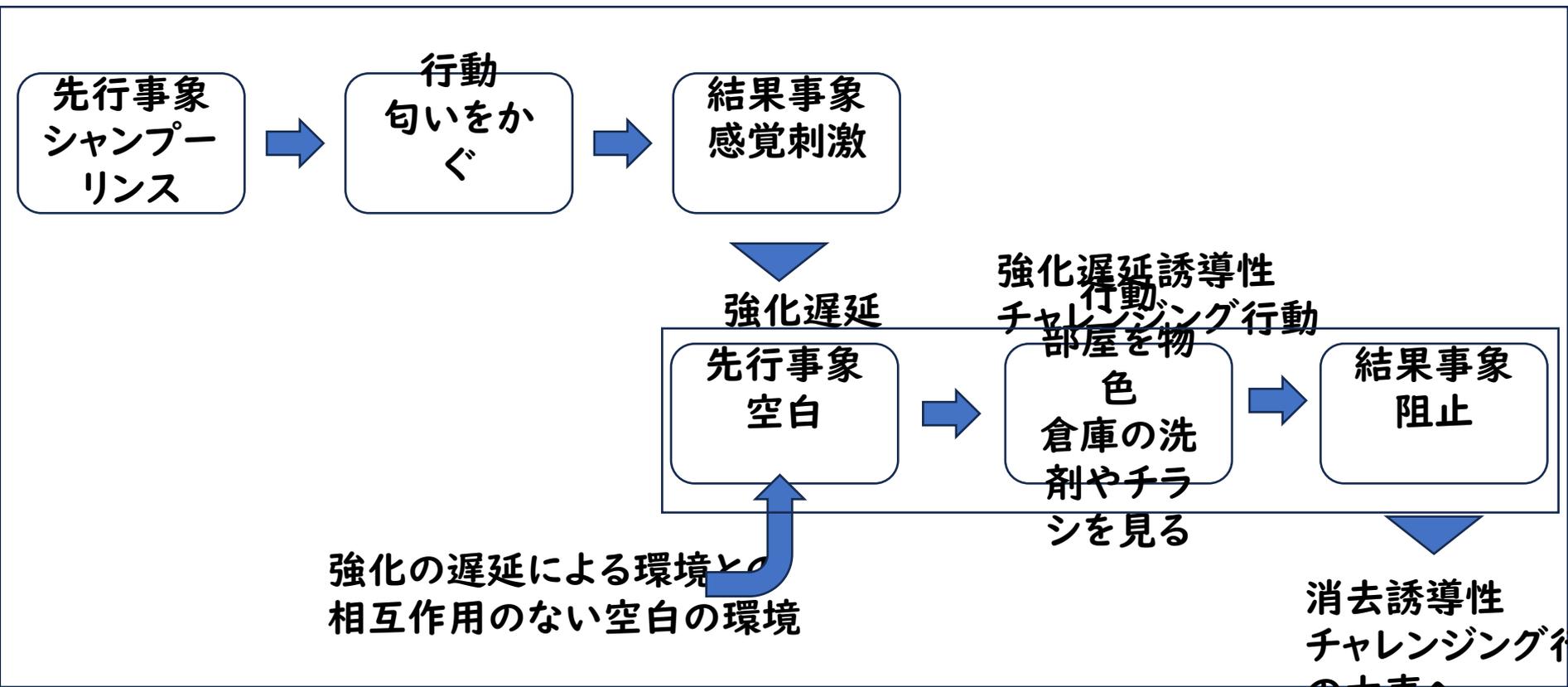


Fig. 6-5-2 チャレンジング行動の全体像についての記述的ABC分析

結果

標的行動の変更時期	ステップⅠ		ステップⅡ										ステップⅢ			ステップⅣ				ステップⅤ				
	X+2年 10月		11月										X+3年 1月			2月				3月				
	19	21	27	28	2	3	4	5	23	24	11	12	13	18	19	25	1	2	8	15	16	1	8	
就寝後は電気を消して起床時間までぐっすり寝ます	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	項目から除外				
人の物を勝手に見ません	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	十分守られているので項目から除外													
お風呂場以外で裸になりません	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	十分守られているので項目から除外													
自分で使った物は片付けます	×	×	×	○	×	×	×	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
食事の時間を守ります(30分以内)	○	×	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大きい声を小さい声にします	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	○	×	○	×	×	○	×	○	○	×	○	○
人に抱きつきません	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	
立ち入り禁止に入りません	項目になかった期間										×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	
人の物を勝手に飲食しません	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
散らかったゴミはゴミ箱に捨てます	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
入浴の時間を守ります(30分以内)	○	○	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
人の仕事中のじゃまをしません	項目になかった期間								○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	○	項目から除外				
起床時間を守ります	項目になかった期間			×	×	×	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	○	

Fig. 6-5-6 Aの「今週の目標について」の行動の達成状況
 黒い線で囲ってある約束項目が、その週に「今週の努力目標」で選ばれた2つの約束を表す。対象となっている約束が変更になる度にステップⅠ、ステップⅡというように区別。

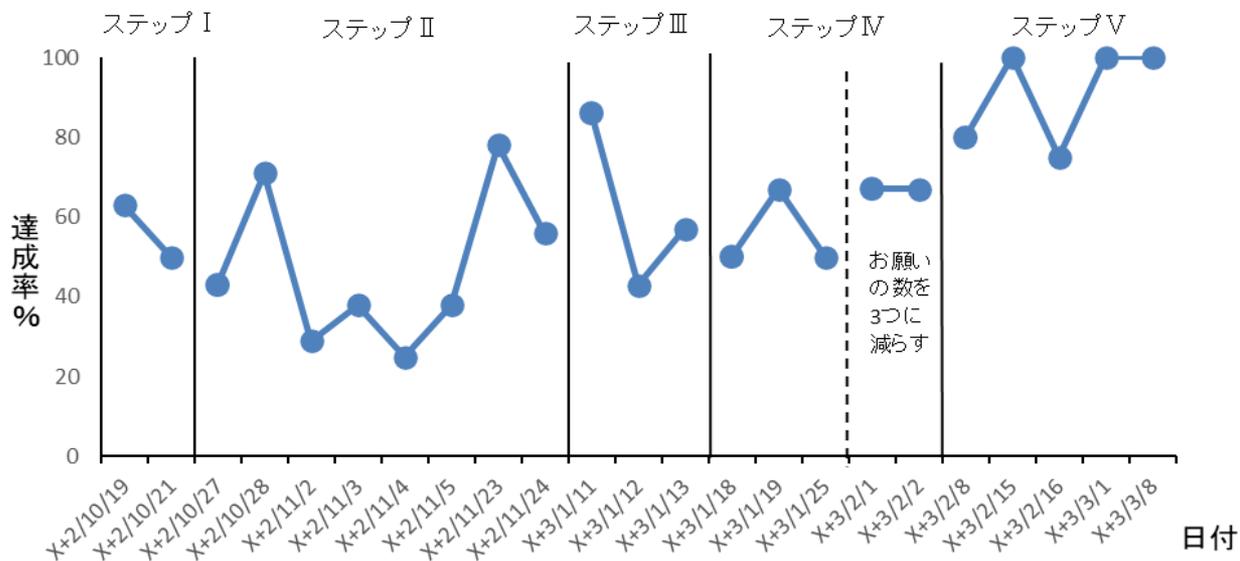


Fig. 6-5-7 Aの「今週の目標について」の行動の達成率

- ルール制御と日課援助法を組み合わせさせた介入により、Aのルール順守率が向上し、介入後も維持した。未記入ルールの順守率も般化が見られた。
- アンケート結果で、Aは生活全般が「とても楽しかった」と5の評価を示し、楽しかった活動は、好みの作業や余暇、食事、お風呂などで、嫌な活動は山登りであった。

結果

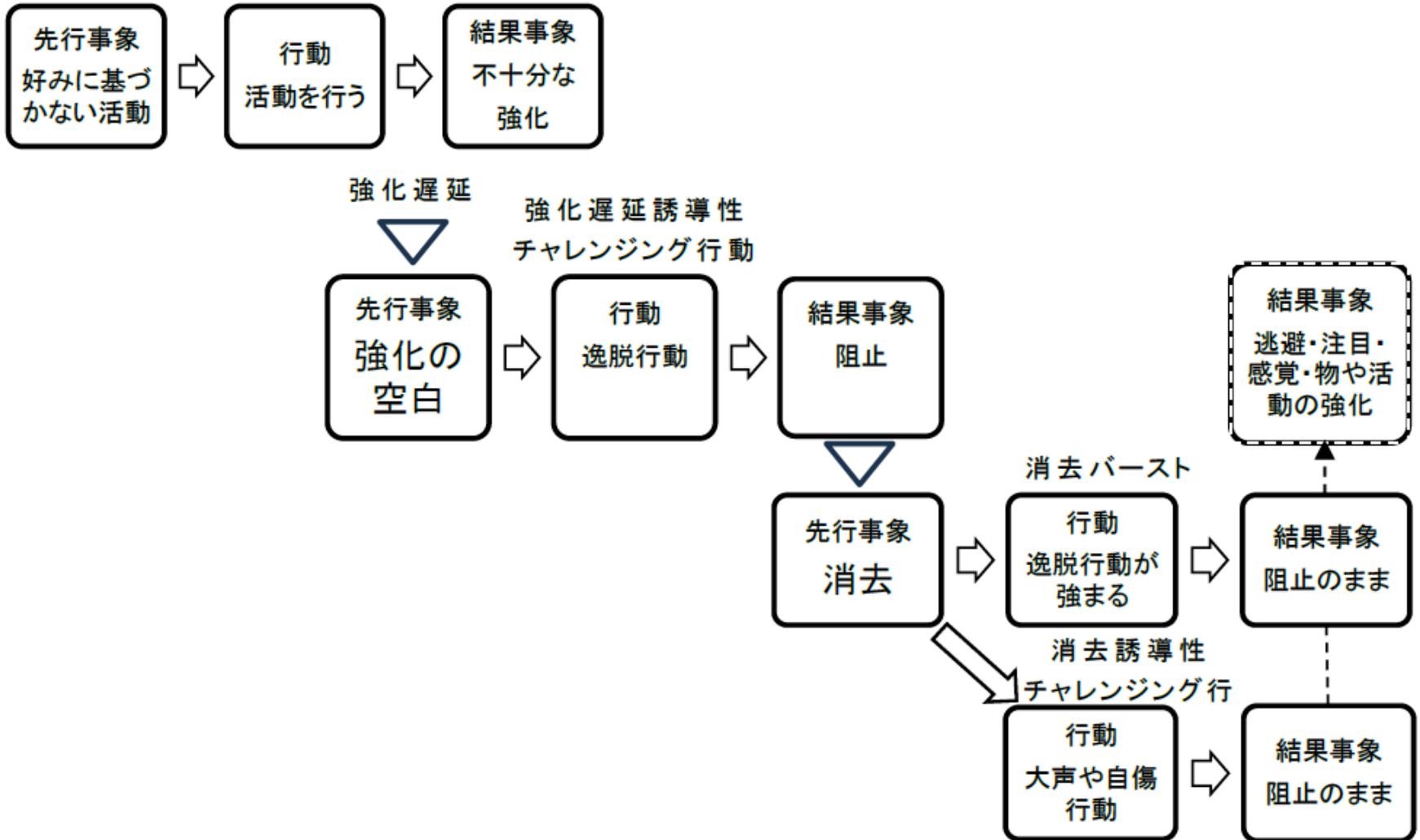
Table 6-6-1 Aの旅行の約束の達成状況

直接注意することなく約束が守れている場合は「○」、注意や阻止が必要だった場合は「未遂」、機会がなかったところは「—」と記載した。

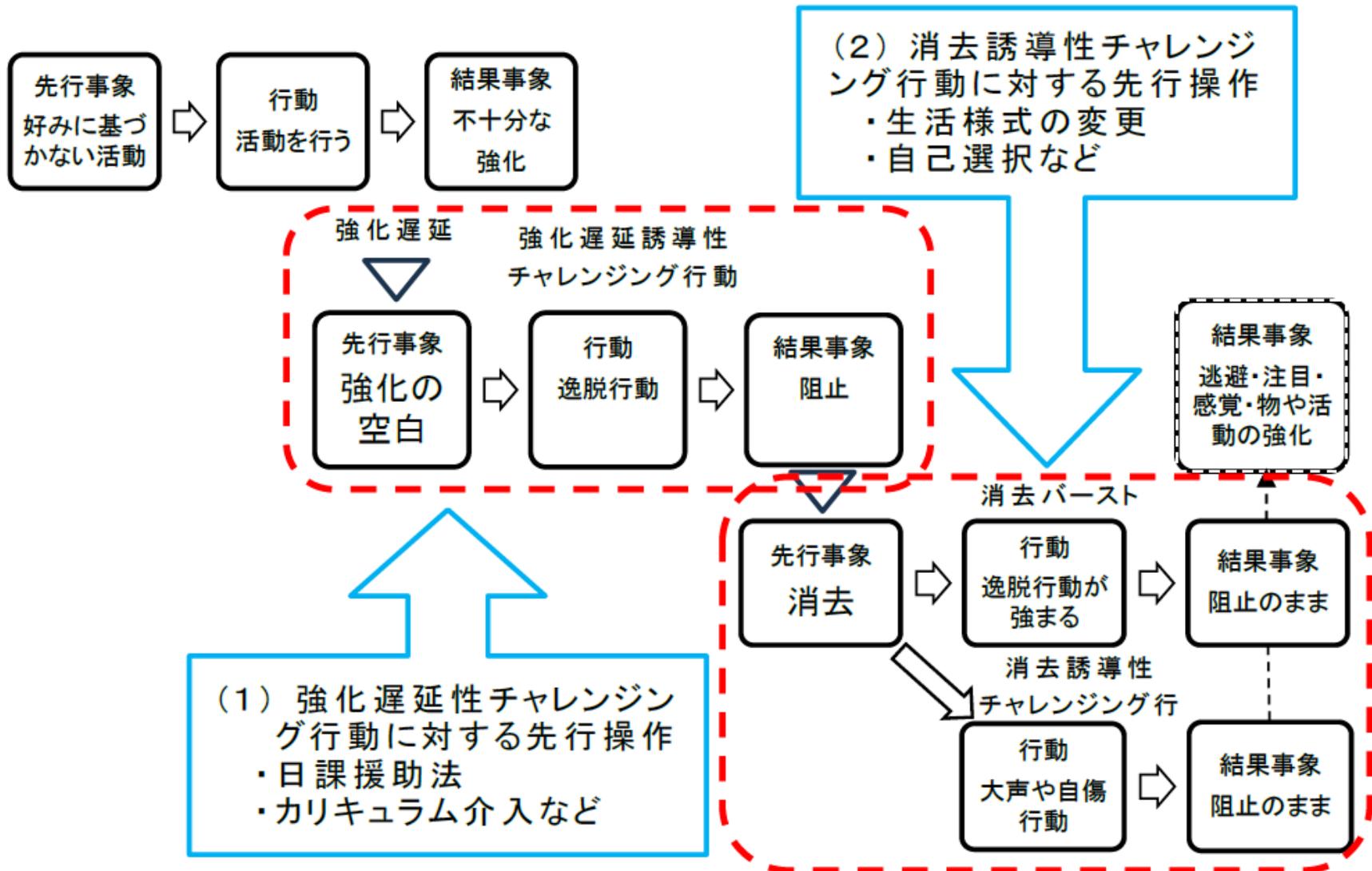
場面	約束	1日目	2日目	備考
トイレ休憩 1回目	女子トイレに入りません	○	○	身障者用トイレと男子トイレの掃除道具入れのドアを開けて見るので注意すると止めた。
	他の車に触りません	○	○	
トイレ休憩 2回目	女子トイレに入りません	—	○	見るので注意すると止めた。
	他の車に触りません	—	○	
Mセンター	建物の外には出ません	未遂	未遂	別館に移動しようとして注意すると止めた。
	女子トイレに入りません	○	○	
Oドーム	2F事務室に行きません	○	—	男子トイレの掃除道具入れに入る、見る、遊泳場の売店に入るのを注意すると止めた。
	レストランには行きません	○	—	
	女子トイレには入りません	○	—	
Jファミリー	レジの周りは触りません	○	—	男子トイレで掃除道具入れを見る、洗面棚を開けて見るのを注意すると止めた。
	厨房には入りません	○	—	
レストラン	女子トイレには入りません	○	—	フロント事務所に入るうとして注意すると止める。トイレの掃除道具入れは見て出てくる。
R宿舎施設	建物の外には出ません	○	○	

- 記載されていた約束は、注意や阻止をすることなく守られていた。
- トイレ休憩で男子トイレの掃除道具入れを開けるなど約束に記載されていない事やMセンターの別館に移動するなどがみられたが、言葉かけで大声を出すこともなく戻ることができた。
- アンケートによる評価では、外出レジャー活動は、「とても楽しかった」で5の評価だった。楽しかった活動は、余暇やレジャー活動、買い物、外食、宿泊施設でのおやつなどで、嫌な活動はバスでの長時間の移動であった。

チャレンジング行動の理解



チャレンジング行動の緩和に対する先行操作



OMさん

- <https://www.youtube.com/watch?v=XwOaXeokqwU&t=4s>

Yさん



かかわりや反応を求めるタイプの人への 対応

肥前ではどのような経験をし何をしていたのか？（1998-1999年）



強迫神経症

- 強迫観念：ある考え（自分の手が汚れているのではないか、鍵を閉め忘れたのではないか、など）が頭に何度も浮かぶ
- 強迫行為：強迫観念を打ち消すためにある行為（何度も手を洗う、何度も鍵を確認する、など）をしないと気がすまなくなり、それを繰り返してしまう

強迫性障害の症状

●汚染の不安

- 汚れや細菌汚染の恐怖から過剰に手洗う、汚染が気になり入浴、洗濯、掃除を繰り返す、ドアノブや手すり、つり革などを不潔だと感じ、触ることができない、自分が触れた部分は汚染されると感じてしまうなど

●加害恐怖

- 誰かに危害を加えたかもしれないという不安が頭から離れず、周囲の人に確認したり、新聞やテレビの報道を確認する。
- 刃物が自分の近くにあるだけで、怪我をするのではないかと過剰に不安を感じるなど
- 唾が飛んだことを気にしてすぐにごめんなさいという

●安全確認

- 鍵の閉め忘れ、電気やガス栓の消し忘れが不安になり、何度も過剰に確認する。

●儀式行為

- 自分の決めた順番でものごとを行わないと、恐ろしいことが起きるという不安から、どんなときも同じ方法でやろうとする。順番を間違えると最初からやり直してしまい、1つの行為に長時間かかってしまう。靴を履く時は必ず右からと決めている。衣類を着る順番が決まっているなど

●数字へのこだわり

- 不吉な数字・幸運な数字に、過剰にこだわる。

●物の配置、対称性などへのこだわり

- 物の配置に一定のこだわりがあり、必ずそうならないと不安になる。

●ものをため込む

- ものを捨てることに過剰な不安を感じ、ものをため込んでしまう。

曝露反応妨害法

- 強迫刺激に暴露させ、強迫行為をさせないように反応を妨害する。
- 洗淨タイプ: 汚れるだろうから避けていた対象にあえて触れ、手を洗わない。
- 対称タイプ: 普段守っているルールをあえてやめてみて、安心するための決まり事をしない
- 加害タイプ: 自分や他人を襲わないためにしている努力をやめてみて、特別な対策をしないで過す
- 禁忌・タブー思考タイプ: あえてタブーとなることを頭に浮かべたり、許される範囲で行動してみて、そのまま過す
- 60分は続けないといけない

ペアレントトレーニング

免田 賢, 伊藤 啓介, 大隈 紘子, 中野 俊明, 陣内 咲子, 温泉 美雪, 福田 恭介, 山上 敏子



肥前ペアトレプログラム

Table 1 HPST プログラムの概略

セッション	テーマ	内 容	形 式	評 価
治療前				① ②
1	概 論	プログラムの導入と自己紹介 発達障害および行動療法の概論	講 義 質疑応答 ホームワーク①を出す	集 団
2	治療例の供覧	治療例のビデオによる治療の手順や技法	講 義 ビデオ供覧 質疑応答 ホームワークの検討 ホームワーク②を出す	前半 集 団
3	行動分析と行動記述	観察の方法、行動分析の仕方、対象行動の選び方	講 義	後半
4	強化と強化子	強化ということ、強化子、強化の仕方	ビデオ供覧	小グループ
5	行動形成法	行動形成の方法（課題分析、モデリング、プロンプトとフェイディング、チェイニングなど）	演 習 質疑応答	（2～3名）
6	構造化の方法	環境の物理的構造化・スケジュールの提示法・ワークシステム・視覚的な教示法	ホームワークの検討	②
7	消去、諸修正法	問題行動と適応行動との関係、行動修正の方法（消去、計画的無視、タイムアウトなど）	ホームワーク③～⑦を出す	
8	親子の対応の実際	まとめとフィードバック	ホームワークの検討	前半
9	親子の対応の実際		ホームワーク⑧、⑨を出す	小グループ
10	親子の対応の実際 修了式		目標行動のビデオ録画 ビデオによるフィードバック	後半 集 団
治療終了時				①②③
FU 1.2.3				① ②

評価①：KB PAC, QRS, BDI

評価②：目標行動の100点法評価

評価③：親の満足度調査

子どもの行動を観察するポイント

- どんな時にその行動が起きたか
- その行動に対して、どう対応したか
- その対応の結果、子どもは何を学んだか



「観察した行動を 具体的にあげてみましょう」



具体的でない例	具体的な例
弟に優しくできない	弟がミニカーを「貸して」と言っても、自分が遊びに夢中になっているときは、「いやだ」と言って貸してあげない。

「観察した行動を 具体的に書いてみよう」



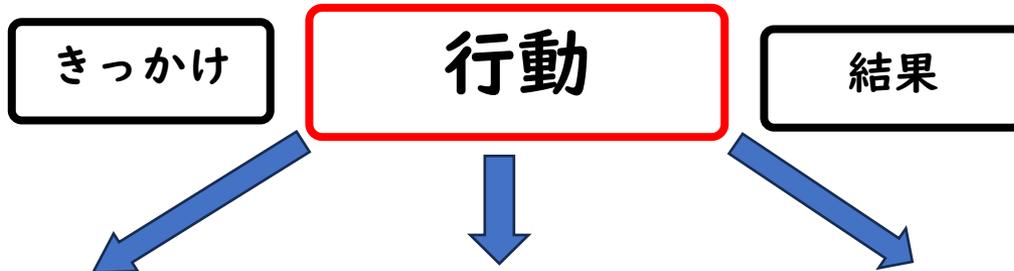
具体的なでない例	具体的な例
レストランでちゃんと座ってられない	レストランで、順番が呼ばれるまでの間、座って待つことができなくて動き回り「ガチャガチャ買って」と言う。

子どもの行動が改善されるためのポイント

- ①子どもの特性にあわせて環境調整（事前の準備）をする
- ②子どもの行動を冷静に観察する
- ③今できることから、具体的に、スモールステップで



行動を3つに分けて、具体的に書いてみましょう！



	好い行動	困った行動	許しがたい行動
説明	本人や周囲の人に好ましい結果をもたらす行動	本人や周囲の人に嫌な結果をもたらす行動	本人や周囲の人を傷つける行動
行動の例	レストランで順番を呼ばれるまで、ゲーム機で遊びながら待つ。弟と順番に遊ぶ。	弟にゲーム機をかさないで、やり続ける。通路で大声を出す。	弟を叩いたり、けんかを始める。

好い行動が増えていくと、困った行動や
許しがたい行動は自然に減る！

好い行動

困った
行動

許しがたい
行動

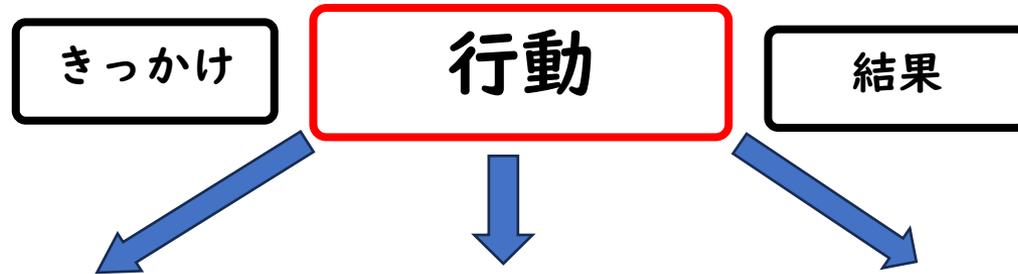
好い行動を増やすには 子どもの良い行動に注目してほめる

- ・大人にとってあたりまえのことでも、しっかりほめる
- ・「してほしくないことを、していない時＝望ましい状態の時」
を見逃さない⇒ほめる



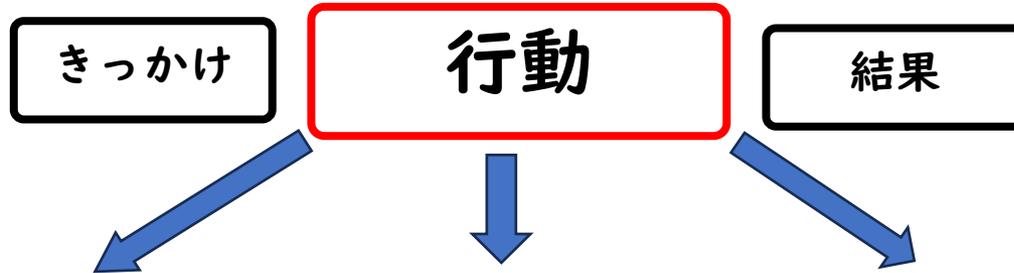
- ・叱られていても「注目」されることが子どもにとっては「うれしい結果」になってる場合があるので注意（ネガティブな注目）

3つの行動への具体的な対応



いい行動	困った行動	許しがたい行動
増やす対応	増やさない対応	なくす対応
ほめる、ごほうびを与える	好ましい行動が起きやすいように環境を整え、ほめるために待つ	許しがたい行動が起きないように環境を整える、良くないことをきっぱりと伝える、事前に約束する

行動を3つに分けて、具体的に対処法を考えてみましょう！



	好い行動	困った行動	許しがたい行動
行動の例	レストランで順番を呼ばれるまで、ゲーム機で遊びながら待つ。弟と順番に遊ぶ。	弟にゲーム機をかさないで、やり続ける。通路で大声を出す。	弟を叩いたりして、大声でけんかを始める。
対応法の例	待てたことをほめ、テーブルに着いたらデザートを食べるよと言う	ゲーム機や絵本を持参し、事前に弟と交代して使うことや守れないと取り上げることを約束しておく。好ましくない行動が起きたら淡々と実行する。	事前に許しがたい行動したら、レストランでの外食を中止して、駐車場の車に戻ることを伝えて約束しておく。実際に起こったら淡々と実行する。

西5病棟 急性期 (1999-2000年)



病棟名 病棟の機能や特徴

- 北1 老年期・認知症
- 北2 精神・内科合併症
- 北3 精神・急性期・慢性期 (男性)
- 北4 精神・慢性期 (女性)

- 南1 アルコール・アディクション・ストレスケア (開放)
- 南2 児童思春期
- 南3 療養介護/医療型障害入所支援病棟
- 南4 療養介護/医療型障害入所支援病棟

- 西5 精神・急性期 (精神科スーパー救急)
- 西7 医療観察法



個室ゾーン



作業療法室

KKさんとの出会い



エクスポージャー

- フラッシュディンクの欠点を補う方法として、不安の少ない場面から徐々にさらしていく方法
- 不登校や引きこもりの治療などで効果を発揮している

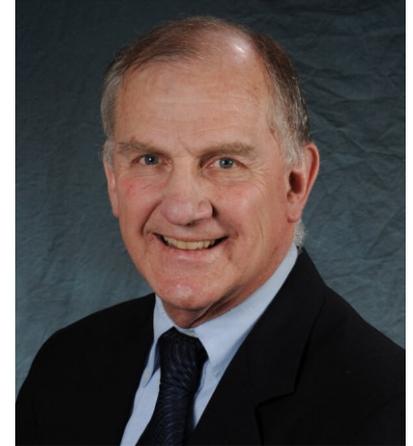


TEACCHへの留学では何を学んだのか？（2001-2002年）



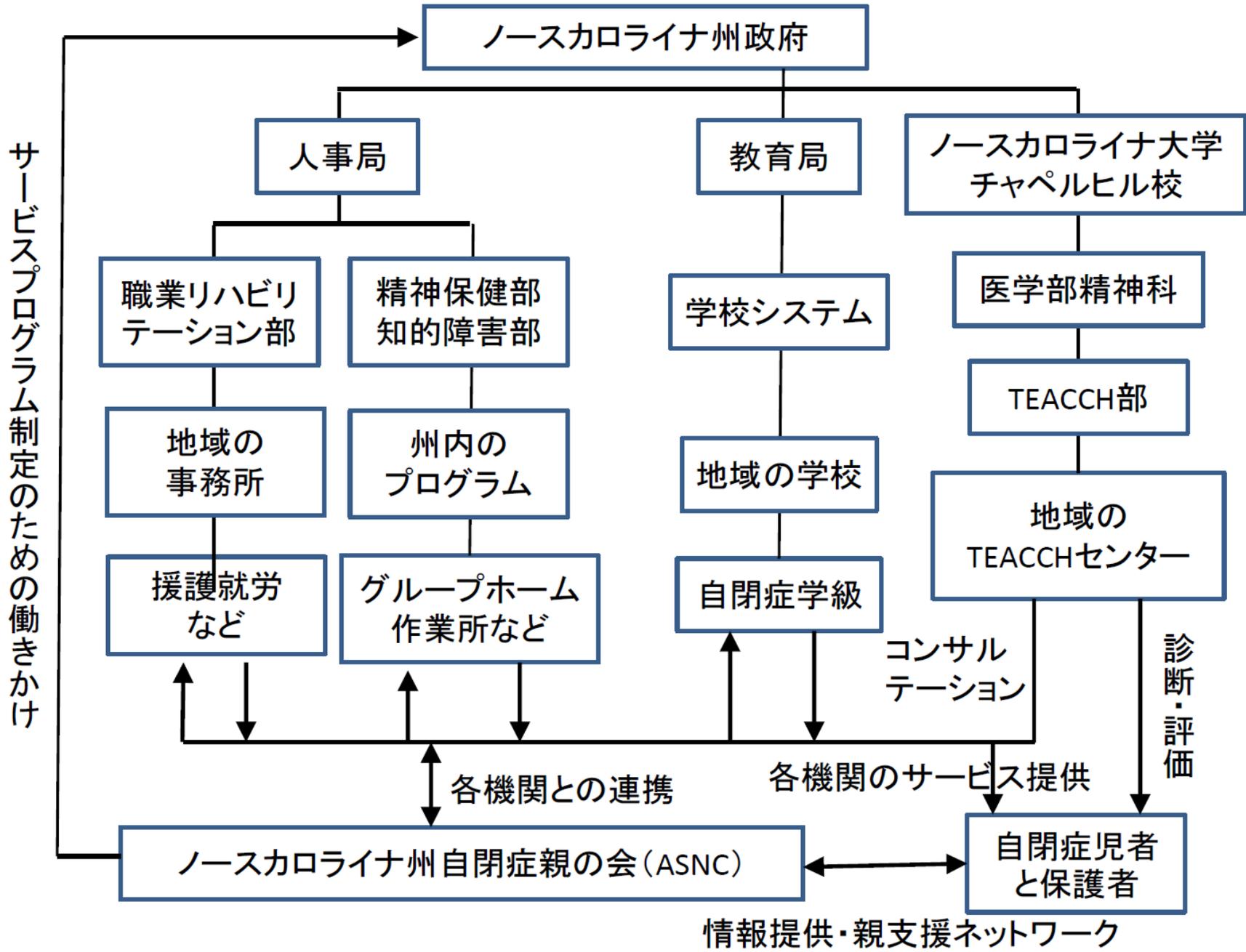
TEACCHと E.ショプラー(1927-2006)

- 1964年にノースカロライナ大学チャペルヒル校の精神科の准教授
- 自閉症および関連するコミュニケーション障害のある子供の治療と教育 (TEACCH) が 1971年に設立され 1972年に初代ディレクター
- 2代目はG. メジボブ博士、3代目はクリンガー博士

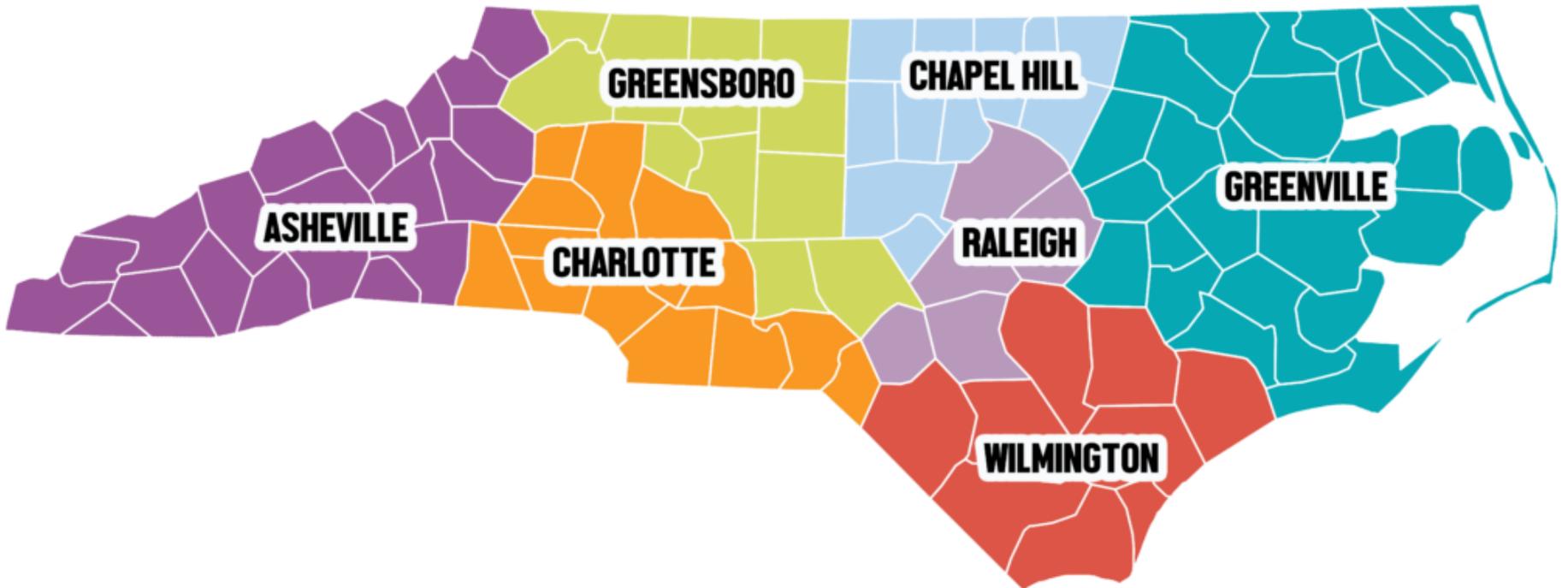


TEACCHの7つの原則

- 第1：子どもの適応能力を向上させる
- 第2：両親が共同治療者として協力する
- 第3：子どもの教育プログラムは、評価と診断に基づいた個別的なもの
- 第4：構造化された教育（structured teaching）
- 第5：子どもの欠陥を正確に認識する
- 第6：認知理論と行動理論を組み合わせを使っていく
- 第7：療育にかかわる専門家はジェネラリスト



NC州とTEACCH





The Autism Society
of North Carolina

Eastern NC Advocacy Office



Greenville
TEACCH
Center



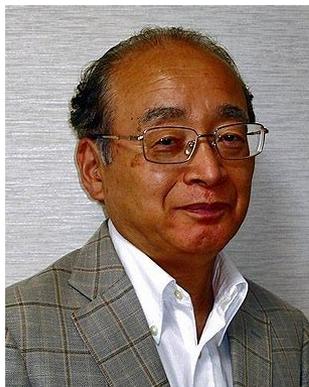
NC州とTEACCH







西南女学院大学（2002-2006年）



TEACCHとABA、そしてPECS？

- 島宗理 (2003) 行動分析学からみたTEACCHプログラム. 鳴門教育大学研究紀要, 18, 197-204.

相違点	TEACCHの構造化された指導	ABAの自閉症指導プログラム
全般的	ノースカロライナ大学 TEACCH部が中心となったNC州政府の自閉症療育システムで使用されている自閉症の指導方法の体系。	ABAは行動分析学という学問を人間の福利のために応用した学問体系。その中で自閉症の治療教育の分野を指す。様々な研究者が指導の特定の分野を研究している。指導の考え方についても研究者により異なり、ABA全体で一致した指導プログラムというものではない。
モデル	発達モデル、認知モデル、行動モデル	行動モデル
障害観	自閉症は、内的な要因によって生じる脳の機能障害と考える。障害自体はなくならないが、本人のスキルの獲得と環境の補償的支援によって適応を促すことができると考える。	自閉症の個体が持つ不適応は、個体と環境の相互作用の中で生じると考える。本人を環境に適応させるための指導訓練によって、障害の軽減が可能と考える。
支援観	本人へスキルの獲得を促すと同時に周囲に自閉症の理解を促し、自閉症の特性に合わせて環境全体を積極的に変えてゆく。	本人にスキルを獲得させることで現在の環境に適応させる努力をする。近年、補償的支援の考え方も出てきた。
目標設定	自立（これは、構造化による援助つき自立と言った方が正確だろう。）	本人のQOLの向上を目指す ノーマル化（ロバスを中心とするグループの人たち）
方法論	構造化	オペラント学習
強化子	自然な強化子を多用：その子どものごだわりや長所を利用して課題を達成することが強化となるように教材を工夫する（マジボフが内発的動機付けと呼んでいるもの）。もちろん付加的な強化子も使うこともある。	計画された強化子を多用：ロバスの言語訓練のお菓子に代表されるように、課題と直接関係のない付加的な強化子を多用している。機能分析をしっかりとすれば、付加的強化子が必要かどうかははっきりするはず。
プロンプト	刺激内プロンプトを多用する。基本的に刺激内のプロンプトはフェイドアウトしないで、学習が成立した場合は、さらにレベルアップした課題に移行する。	外的プロンプトを多用する。プロンプトは本人の上達と共にフェイドアウトすることで、自立を促す。

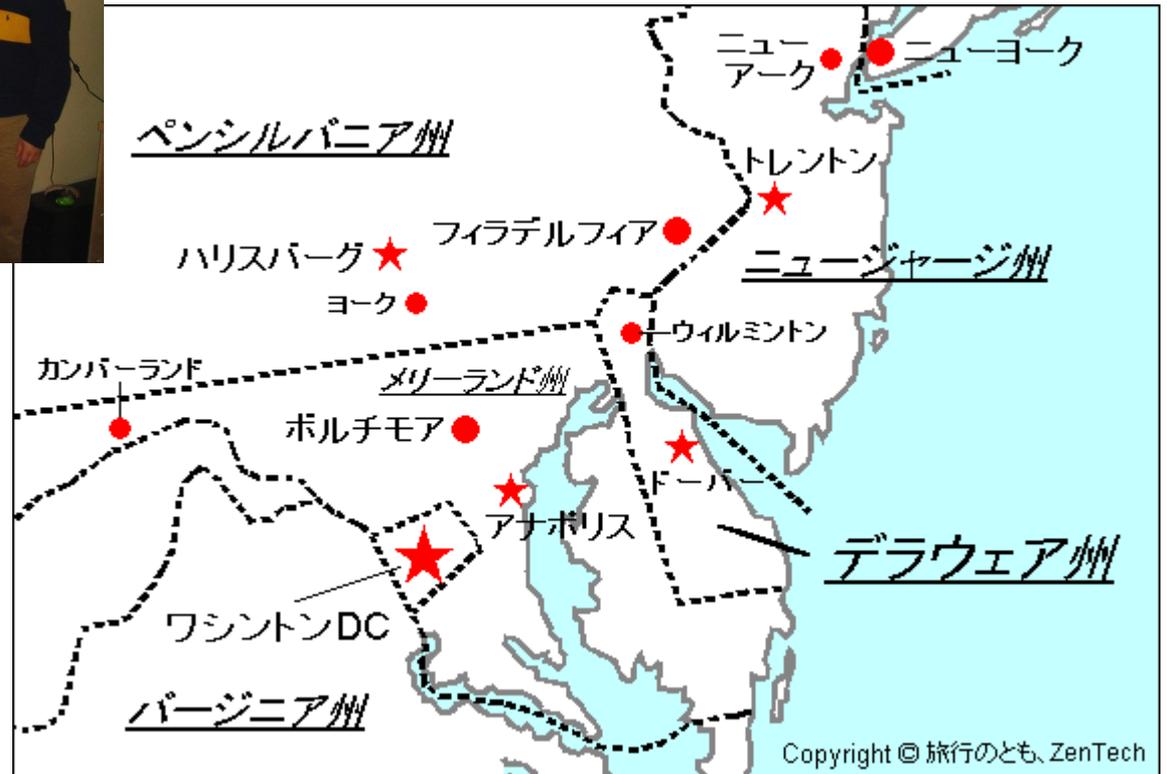
共通点

<p>指導技法、 プログラムの 共有</p>	<p>PECSなどABAが開発したプログラムも取り入れている。 (他にも課題分析、シェイピングなどの行動形成の技法や問題行動の機能分析、コミュニケーション訓練、デスクリートトライアルなどABAの技法を取り入れたものは、かなり多い。)</p>
<p>技法の発展 と有効性</p>	<p>ABAでは、特定の理論からの推論によって技法を発展させるのではなく、単一事例実験計画法を用いて、厳密に技法の有効性や効果を確認している。TEACCHも、現場で試すことで経験的に有効性が確認された技法を取り入れている。</p>

なぜ大学を辞めてPECSの会社を 設立したのか？



PECSとデラウェア州自閉症プログラム







今のABC研究所でまさに取り組もう としていること（2015ー現在）



対人支援と強度行動障害のまとめ

- 思いと繋がり
- 開拓者魂
- 知識と技術

思いと繋がり

- 情けは人のためならず
- 一期一会
- 和を以て貴しとなす
- 遠くの親戚より近くの他人

開拓者魂

- 思い立ったが吉日
- 為せば成る 為さねば成らぬ何事も
- 志ある者、事竟に成る
- 虎穴に入らずんば虎子を得ず
- 草莽崛起

知識と技術

- 学んで時に之を習う、亦説ばしからずや
- 千里の道も一歩から
- 継続は力なり
- 鉄は熱いうちに打て